

黄川田仁志 外務大臣政務官による
核軍縮検証のための国際シンポジウムにおける冒頭挨拶

フランク・ローズ 米国国務次官補
藤原帰一 東京大学教授
アンドウリュウ・ビエニアウスキ 核脅威イニシアティブ副所長
ご列席の皆様

皆様，1か月前を思い起こして下さい。オバマ大統領は，現職米国大統領として初めて広島を訪問し，被爆の実相を目にされ，こうおっしゃいました。「私自身の国々同様，核を保有する国々は，恐怖の論理から逃れ，核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければなりません。自分が生きている間に核兵器のない世界という目標を実現することは出来ないかもしれない。しかし，粘り強い努力により，大惨事が起きる可能性を低くすることが出来るし，保有する核の根絶につながる道を示すことが出来る」と。これを受け，安倍総理はこう応じました。「『核兵器のない世界』を必ず実現する，その道のりが，いかに長く，以下に困難なものであろうとも，絶え間なく，努力を重ねていくことが，今生きる私たちの責任である」と。

I P N D Vで扱う核軍縮検証作業は，まさに，この道のりの上にある具体的な取組の一つです。これは，核兵器の削減，そしていずれは核廃絶が，約束通り実施されたかを確認する手段であり，核軍縮の確実な実現のために極めて重要な取組です。これまで，核軍縮検証の作業は，核兵器国である米国及びロシアによって，核軍縮の約束が実施されたかを相互に確認するために行われてきましたが，今後，削減が進み，核兵器数が十分に減少した時点において，非核兵器国も含めた多国間の検証体制が必要となります。I P N D Vは，そのための検討を今から進めることを目指した国際的な取組です。

I P N D Vのこうした意義や，日本も参加する国際社会の取組について，もっと広く知ってもらおう，そして，核軍縮と安全保障と

の関係についても多くの方々に考えてもらおうということで、今回このようなセミナーを開催しております。日本そして世界の将来を担う学生も含めた聴衆の皆様にも積極的に参加いただきたいと思います。

折しも、日本の周辺では、北朝鮮が核実験やミサイル発射実験等の挑発行動を繰り返し、また、不透明な形で軍備を増強する国が存在するなど、安全保障環境は厳しさを増しております。一方で、冒頭言及しました先月のオバマ大統領による広島訪問を経て、核軍縮に対する関心が再び高まっています。日本を取り囲む厳しい安全保障環境において、唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」を目指す使命をどのように果たしていくのかということについて、忌憚なき議論が交わされることを期待し、私の挨拶とさせていただきます。

(了)